



(例2) 数学科、TTによる個別指導

さらに先に進んで学習したい生徒や、以前の学習内容の復習が必要な生徒は、一旦、場所を変えて個別に学習する。

TTであれば、個別指導がしやすい状況となり、生徒も質問しやすくなる。

### 3 音声を伴うコミュニケーション活動に活用する

国語科や英語科のように、音声言語に関する学習を伴う教科については、同一教室内で、ペアやグループで、まちまちに声を出した場合、聞き取りにくいことがある。

そのような場合、オープンスペース（隣の教科教室、共用教室が空いていればそれらも含めて）の活用が考えられる。

(例1) 国語科の朗読や群読の練習

(例2) 英語科のインタビューやスピーチ練習

クラス全体の前で発表する場合には、通常事前にリハーサルを行うが、その時にオープンスペースを活用する。

また、教科教室型の場合は、校舎内に発表する場を前提としたつくり（ホールとかオーデトリウム等の呼び名で）を設けている場合が多いので、その場を活用して、上級生の優れた発表を下級生に聴かせることも可能である。それによって、両者に励みや目標をもたせることができる。

### 4 広い空間を利用する

オープンスペースやホール等、通常の教室よりも広い空間があることによって可能となる授業も考えられる。

(例1) 理科「電流のはたらき」

スピーカー 電気コード スピーカーとつなぎ音を電気の信号（電流）に変えて、コードを通し、電気の信号をまた音に変える。

このとき、オープンスペースを使えば、遠い距離で実験を行うことができ、豊富な実験

データが得られるだけでなく、生徒は大変興味深く、積極的に活動することができる。

(例2) 家庭科「保育」

広い空間を、生徒が作ったおもちゃを種類ごとに分けて園児を遊ばせ、観察させる。



多目的ホールを使って、保育園児を招いての3年家庭科保育の授業

ただし、広い空間を利用する際の留意点として、以下の配慮が必要となる。

指導の範囲が、空間的に広がるので、生徒に学習のねらいと手順を、よく理解させておかなければならない。TTで行えば、より効率的な学習になる。

単元にそって、計画的に学習環境の整備を心掛ける。

習熟度別に分ける場合は、生徒が劣等感や優越感をもたないように配慮する。

隣の教室で授業が行われている場合は、音の配慮が必要となるので、日課編成をよく見て、計画的に実践する必要がある。

展示を工夫して、学びへの主体性を育てる

教科教室型校舎の大きなメリットは、教科教室とオープンスペースを自由に使えることである。それによって、各教科の特色を出し、生徒の興味・関心を引き出したり、すぐそばにある展示物を使って授業を組み立てたりすることができる。

## 1 生徒作品を教材として使う

### (1) 優れた生徒作品を展示する

完成までに時間を要し、いくつかの段階を踏みながら作品を制作していく学習においては、事前に途中段階の生徒作品をオープンスペースに展示しておくことで、制作過程等がよくわからない生徒には授業中にオープンスペースに行かせて、展示物を参考にさせることができる。

(例) 国語科の作文教材で、書き出しや組み立ての優れている作品をコピーして掲示し、よくわからない生徒の参考にさせる。

### (2) コンテスト形式を取り入れる

詩、短歌、俳句等の生徒作品を掲示し、好きな作品を選ばせたり、感想(コメント)をつけて投票させたりする。できれば、オープンスクール(参観日)の時などを利用して、保護者や先生方にも協力してもらおうとよい。後から、集計して賞とコメントを掲示することも考えられる。

そうすることによって、作品を創作する意欲を高めることができるとともに、鑑賞する目も養うことができる。

### (3) 生徒相互の交流を図る

課題別学習等では、ワークシート(レポート)ができ上がった生徒から、それをボードに掲示させ、全員の作品が掲示されたところで、読み合う活動を取り入れる。

同じテーマを選択した生徒同士が作品を読み合い、共感する点や、異なる点等を出し合うことで視野を広げさせることができる。

このような作品を通した相互交流も、オープンスペース等の自由度の高い空間を積極的に活用することで可能となる。

## 2 学びに導く展示を工夫する

### (1) 基礎的事項(技法)の展示を参考にする

#### (例) 数学

教室前面に必要な公式を見やすく、大きく貼ることによって、公式を覚えていなくて解けない生徒のヒントにする。



数学教室前面

### (2) オープンスペースの棚を活用する

オープンスペースの棚に、自由に使える学習プリントを入れて活用する。

#### (例1) 数学科

単元のプリントを3種類用意し、2種類は今までの授業の復習のプリントを、残りの1種類は、授業と同じ進度の内容のものとする。こうすることによって、数学の苦手な生徒にも使い易くする。

#### (例2) 国語科

選択国語の時間に、生徒が資料集をもとに作った問題をプリントし、1年生用~3年生用までレベルを分けて、棚に収納し、自由に使えるようにする。



生徒手作りの問題  
プリント

### (3) クイズ形式で展示する

社会科などで、覚えてほしい事項を紙でかくして展示することで、興味・関心を高めさせて学習できる。

展示に関しては、以下の留意点が考えられる。

展示については、常時置いておくものや、ある程度の期間、掲示しておいた方がよいもの、短期間で替えないと効果がないものがある。

いずれにしても、時間や労力がかなり必要とされる。そこで、展示したものを蓄積していったり、優れた生徒作品については、本人の了承を得て、学校に残してもらったりするとよい。特に、卒業生や上級生の作品については、下級生の興味・関心度が高く、効果が大きい。

展示物の中でも、学級委員や教科係を使って定期的に替えるもの(例:国語科の「今月の詩」など)は、生徒に作らせる方法も考えられる。

展示物を見せようとしても、移動に時間がかかったり、教科教室とホームルームが併用されたりする場合があるので、授業中に見せる工夫が必要となる。

アンケートや授業評価を通して、改善点や新しい試みを見つける

## 1 生徒を対象としたアンケートを行う

教科教室型校舎は、開校当初は、生徒にとっても、初めての体験である。生徒たちが、どのような意識をもって授業を受けているかを把握し、分析し、授業の改善や新しい試みを検討することも大切である。

アンケートの項目については、研修部で検討し、企画会、研修職員会で提案し、全教員の共通理解を図る。

(例) 授業に関するアンケート項目(選択肢は～の4つ)

- ・授業は楽しいですか。(全教科を平均して)(ここでいう「楽しい」とは、授業に興味をもち、学ぶことの楽しさです。)
- ・授業内容はわかりますか。
- ・教室内やオープンスペースの掲示物(生徒作品も含む)、資料、本などを見たり、読んでいますか。
- ・教科教室は、教科の雰囲気を感じられますか。(全教科平均して)
- ・自分から進んで、授業を受けようという気持ちになってきましたか。

自由記述で答えるところ

- ・教科教室型校舎での学校生活について、良い面や、困っている点等あれば、書いてください。
- ・教科教室やオープンスペースに、掲示してあればいいなと思うものや、置いてあればいいなと思う物があれば、書いてください。

これらのアンケートは、年2～3回実施し、その都度、学級担任が集計して研修部に提出する。

研修部では、学年単位、また、全校単位で集計、分析して、成果と課題を整理する。

研修部で検討したものを企画会に提示し、今後の研修の方向性については、研修職員会で提案し、話し合い、実践に移す。

## 2 生徒や教員自ら、授業を評価する

一つの教材や単元が終了した時に、生徒に授業を評価させることは、自分の授業を客観的に振り返り、改善していく上で重要である。できればその項目の中に、授業形態や展示の工夫に関する内容も入れておくとよい。

(例) 生徒による授業評価項目

- ・一方的な話ではなく、生徒が交流しあう活動がある。
- ・もっと学びたかったり、理解できないことがあったりしたとき、資料となる展示がある。

また、教員自身が、自らの授業を振り返る評価表を作り、その項目の中に上記の2つに関連する内容のものを入れるという方法もある。

(例) 教員の授業評価項目

- ・学習活動、ワークシート、発問の工夫、視聴覚機器の活用等、工夫・検討している。
- ・生徒一人ひとりが自分なりの考えや思いや課題意識をしっかりとるよう、個人思考ができる活動や時間を保障する。
- ・すべての生徒に出番があるように、授業の流れを工夫する。

以上のように、校内研修においては、生徒の思いや教員自らの振り返りを通して、授業を改善していく手がかりを見つけたら、新しい試みを見いだしたりしていくことが大切である。

<参考文献>

東京都港区立六本木中学校、  
『平成13年度「研究紀要」』